

活動報告

団体名	被災写真洗浄あらいぐま熊本
活動名	令和2年7月豪雨において熊本県南地域で被災した写真の洗浄救済活動事業
活動期間	2020/07/23~2020/09/30
活動の成果	<p>【得られた成果】2021年9月までに、26名の依頼者に対して、被災した写真約1万5千枚を洗浄して返却することができた（一部返却を除く。）高校生から70歳代まで、約200名（延べ1,800名）のボランティアが写真洗浄に参加している。豪雨災害では、多くの被災者が写真は洗浄して残すことができることを知らずに捨ててしまうが、今回あらいぐま熊本の活動に参加した参加者は、今後豪雨災害が発生した際に被災地で写真洗浄の存在を伝え、写真洗浄活動に参加できる人材となる。また、コロナ禍で人とのつながりが希薄になる中でも感染症対策を講じた上で活動を行うなかで、世代を越えたメンバー同士の交流も生まれ、復興支援活動を通じた人のつながりも広がっている。</p> <p>【成果とその要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> メンバーがこれまで熊本地震の支援活動を継続していたことで、被災地の社協や現地入りするボランティアとのつながりができていた。これによって、避難所や被災者宅において、被災者が被災した写真を捨てる前に写真洗浄の存在を知らせることができた。また、全国各地の写真洗浄団体とつながりを持っていたことで活動当初から技術的サポートを得ることができた。 活動拠点を人口が多い熊本市に置き、学校や熊本市市民活動支援センターへボランティア募集の告知を行ったことで、高校生や大学生も含めた多くのボランティアが参加しやすく、毎週新規の参加者を受け入れている。また写真洗浄活動のみならず、メンバー一人一人が個性を生かせるよう働きかけたりメンバー間の交流が進むよう意識し、継続して参加するボランティアを増やすことができた。
寄付者へのメッセージ	<p>このたびは多大なるご支援を賜り、深くお礼申し上げます。熊本県は令和2年7月豪雨により甚大な被害を受けました。毎年各地で水害が発生する中、またコロナ禍で人と人とのつながりが希薄になる中で、大切な思い出の写真が残ることは被災からの復興にとってかけがえのない力となります。熊本県は2016年の熊本地震を経験し、当時自分たちも全国からたくさんの方々の支援をいただいた経験から災害復興支援にはひとかたならぬ思いがあります。今回の豪雨災害でもすぐに被災地に支援が向けられましたが、一人一人の力や思いを被災者の方々へ直接つなげるためにも、ご寄付いただける方々の支援が必要です。あらいぐま熊本の活動は道半ばですが、これからも皆様のご支援を糧に続けてまいります。</p>

(活動のようす)

